

提出締切：2010 年 5 月 20 日（木）

2008 年度採択 学内提案公募型研究推進プログラム「基盤的研究」 研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名： 立命館大学コリア研究センター・前センター長 氏 名： 徐勝
研究課題	韓国平和主義の法的分析－憲法、平和と人権の視点から

I. 研究計画の概要

研究の計画について、概要を記入ください。

現代韓国の平和主義の研究は、先行研究の蓄積が皆無に近いということが、これまで申請者が研究代表となり積み重ねてきた先行の基盤研究からわかっている。そこで、長期的には現代韓国における軍事主義と平和主義の相克を総合的に研究することを目標に、今回はその端緒として、韓国平和主義の憲法的論議の整理とともに、平和意識の基礎調査を重点的にこなす。

韓国の当該分野の専門家との共同研究によって遂行していく。その成果は日韓共同研究シンポジウム（2008 年 11 月開催予定）で中間総括したのちに、さらなる実証的調査・考察を重ね、成果を書籍として刊行し、次年度以降のさらなる研究につなげていく。

【上半期】

- ①分担者各自はそれぞれの研究分担（p.1 参照）に沿って、日韓共同研究会は韓国の各平和研究機関、各教育機関における平和教育の実態を調査する。平和運動 NGO、平和に関連する行政機関への訪問、関係者からの聞き取りなどのフィールドワーク、意識調査、資料収集を含む。
- ②日本側研究代表である徐勝(立命館大学)は、日本、韓国にわたる研究全体の企画・調整・進行・事務を統括する。韓国側研究者は韓寅燮(ソウル大学)が統括する。また、立命館大学コリア研究センターを主務機関とする。
- ③日韓の統括者はそれぞれ研究分担者の中間報告的な研究会を組織し点検・共有作業を行う。その情報を日韓で共有、全体の成果に反映させる。

【下半期】

- ④それぞれの分担者がペーパーを作成。日韓両言語に翻訳する。
- ⑤11 月に立命館大学で日韓共同研究シンポジウムを開催する。各分担者は分担テーマの研究成果を発表し、認識の共有、議論をおこなう。その後、これをもとに補完的作業をおこなう。
- ⑥研究の準備・推進は、立命館大学国際平和ミュージアムの研究蓄積および業績に鑑み、同ミュージアムと連携しつつ行う。

II. 研究成果の概要

研究成果について、概要を記入ください。

本研究の当面の目的は、①急速に展開しつつある現代韓国の平和主義を法・政治、思想・文化・社会、教育・研究、市民運動、政策の各分野において実証的に研究すること、②戦後日本の平和主義との比較を通じて両国の平和主義の特性を考察すること、である。最終的な目的は、韓国現代史を貫流する平和主義・平和思想の体系的研究、すなわち韓国平和主義の全体像を総合、現代韓国の構造変化と民主主義の変容に対する継続的、定点観測的な研究として結実させることである。

本研究の意義は、①社会各分野で急速に発展しつつ、現代韓国の最重要の政治的・社会的・文化的アジェンダとして登場している平和主義を歴史的文脈に位置づけ、②日韓の平和主義の比較検討を通じた両社会の法・政治学的構造の特長を析出するのみならず、③平和の価値の共有を基礎とした日韓の政府および市民社会次元での和解と協力の政策的方向に関する基礎づくりに貢献するところにある。

これらの目的を達成すべく、2008 年 6 月 28 日韓国の建国大学校において日韓共同研究会「韓国平和主義および平和思想の歴史・哲学・宗教学研究」を行った。同研究会は第一部「歴史から見た韓国の平和主義」と第二部「平和思想の諸側面」および総合討論「韓国平和主義および平和思想の歴史・哲学・宗教学研究」からなり、活発な議論が交わされた。同研究会における議論は、研究課題である「韓国平和主義の法的検討」を行うための基礎的研究であったと位置づけることができよう。

本ページはホームページに公開いたします。1 ページに収めてください。